



「ふふふ」

井上 ひさし 著

まず、このタイトルに釘付けになりました。「ふふふ」です。本屋で平積みになった文庫が笑ってるんです。そして、この表紙の見返りネコ。このイラストも「ふふふ」な表情。これはもう「読むしかない」。そう思っって本を手に取り、レジに並びました。どんな「ふふふ」なことが書いてあるんだろう。そう思いながらページをめくると、これは笑い事じやあない。外交政策についての話やプロ野球の経営についてのエッセイ。または、日本語の教育方法など。中でも印象的だったのは、外国の入試問題に関するエッセイ。アメリカのある大学の入試問題「あなたの一生を書きつづった三百ページの本がある。その二百七十ページ目にはどんなことが書いてあるか。二百七十ページを書きなさい」これは、学校で習う授業や塾で習う知識の暗記では、絶対に解けない。問題を出す側も回答する側も、現代の日本人には思いもつかない試験問題なのではないでしょうか。

この本には45本のエッセイがまとめられていて、BBCのエイプリルフルのエピソードのように「ふふふ」と笑えるものもあります。ですが、大半が日本という国の現状について、「もっとしっかりしろ!」と叱咤しているように感じました。そして、その怒りの分だけ作者は日本が好きで、日本人はすごいと思っっているんだと。ユーモアたっぷりのエッセイなのに、「もっと身体を使え、心を使え」と口酸っぱく言われているような気がします。

三谷



講談社文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞